

2021年度海洋教育実施状況報告書

1. 実施概要

学校名

沖縄県糸満市立糸満中学校

採択活動名

「海人科（うみんちゅか）」～海人が活躍した糸満の海を学ぼう～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 「海を学び、伝え、守りたい-私たちにできること」	1	海人科
2. 「海の環境について考えよう」	1	海人科
3. 「マイクロプラスチック採取」	1	海人科
4. 「海と船の教室」	1	海人科

取り組みの概要

1 学年 「海を学び、伝え、守りたい-私たちにできること」

- (1) 「海を学び、伝え、守りたい-私たちにできること」をテーマに15時間設定で実施。海の現状を知るために、しかたに自然案内の鹿谷麻夕さん、沖縄県立沖縄水産高等学校の教諭及び生徒、東京海洋大学の生徒を招き、SDGsの視点も絡めた講演会を実施した。
- (2) 講話を受け、マイクロプラスチックの採取を実施した。
- (3) マイクロプラスチックを分別し、種類や数、発生源等を調査した。
- (4) マイクロプラスチックや海ゴミ等の調査を踏まえ、各学級でグループごとに探求テーマを設定し課題解決に取り組んだ。
- (5) 学級、学年発表を開催し、各グループで調べたことを様々なツール(PW、新聞、紙芝居等)にまとめ発表した。
- (6) 竹富町海洋教育サミットに学年から5名代表が参加し、取り組んで来たことをまとめ発表した。



1 学年 講演会



1 学年 マイクロプラスチック採取

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. ビーチクリーン活動	2	海人科
2. テーマ設定・調べ学習	2	海人科
3. ジョン万次郎講演会	2	海人科

取り組みの概要

<p>2学年 ビーチクリーン活動</p> <p>(1) ビーチのごみ拾いを通して、海洋ゴミが陸から出されるものだと知り、海洋と海洋資源を持続可能な開発(ESD)に向けて保全し、利用することを考える機会として実施した。</p> <p>(2) 各学級に分かれ、美々ビーチのごみ拾いを行う。</p> <p>(3) 各学級にて、ゴミを分別する。</p>
<p>2学年 テーマ設定・調べ学習</p> <p>(1) 海洋教育のコンセプトと12分野より、各学級のテーマを設定して班編成し、グループのテーマを決めて調べ学習を行う。</p> <p>(2) 学級、学年単位での発表会や展示会等を行う。</p>
<p>2学年 ジョン万次郎講演会</p> <p>(1) ジョン万次郎講演会を通して、自分の将来の目標や人生設計を考える機会とする。</p>



2学年ビーチクリーンのようす①



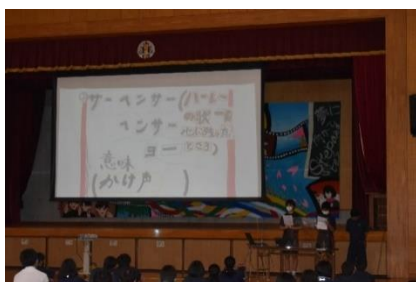
2学年ビーチクリーンのようす②



学級発表会のようす①



学級発表会のようす②



学年発表会のようす①



学年発表会のようす①

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 講演会「生きる」	3	海人科
2. 防災キャンプ	3	海人科

取り組みの概要

- 3 学年「自助・共助・公助について学び、防災キャンプを実施しよう」
- ① 「生きると海洋教育」をテーマに 15 時間設定で実施。
 - ② 講師：有村博勝さんを招き、講演会を実施し、「自助・共助・公助」について学ぶ。テント設置体験を通して知識・技能を身に付ける。
 - ③ 防災キャンプ（6つのコース）を体験し、災害時に役立つ技能・知識を身に付け、地域防災力向上の意識を持って活動する。
 - ④ 体験を通しての個人スライドまとめを行う。
 - ⑤ 学級で発表会を行い、お互いに学んだことを共有する。

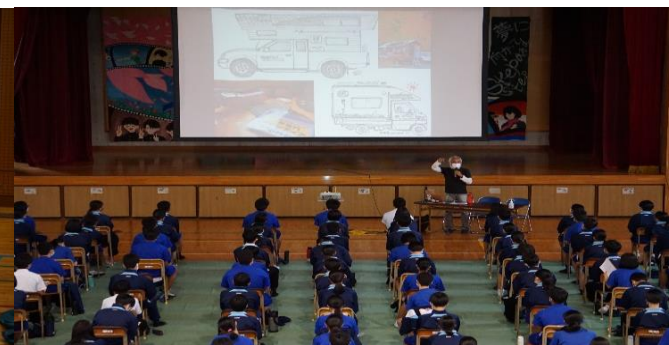
活動中の写真



防災キャンプ（テントコース）

（防災調理コース）

（救急救命コース）



テント設置体験

講演会「生きる」

2. 自己評価

【妥当性】

各学年設定したテーマに沿って学習を行うことができた。活動を通して地域の海の現状を知り、生徒が課題意識をもって学習に取り組むことができた。体験活動だけでなく探究学習も実施し、分量は適切であった。海洋教育の入り口として、1年生はSDGsを踏まえた「海の環境」について取り組んだ。2年生は「地域の海」について色々な分野から調べることができた。3年生は「生きる」というキャリアの視点を持って取り組むことができた。学習内容や分量は生徒の発達段階においても現状に合ったものであった。

【有効性】

1学年はおおむね計画通りに実施することができた。外部講師を招き、専門性の高い学習に取り組むことができた。また、西表島（竹富町）で他地域の学校との海洋教育の成果を発表する機会があり、海洋教育の学びを深めることができた。

2学年は新型コロナウイルスの影響で、計画が変更されることもあったが、計画したことをすべて実施することができた。「ジョン万次郎講演会」では、糸満市に上陸した日本の偉人について学ぶことができ、教科横断的な学習へとつながった。

3学年は「海を知る、海を利用する」をテーマに災害時における正しい知識・技能や判断力を身に付けることができた。各関係機関は例年連携を重ねてきた機関であったため、協力が得やすく、協力体制や指導内容は教員が意図した学習内容であったため良好であった。三者面談期間中に、廊下等に成果物を展示し、保護者へ発信する機会とすることができた。また、年度末には糸満市役所で成果物を展示することができ、市民へ活動を紹介することができた。

【効率性】

前年度で計画が練られていたので、早い段階での実施が可能であった。「海の環境」については調査している沖縄水産高等学校の教員や生徒、専門的な知識を持った外部講師に依頼したこともあり、内容はとても充実したものになった。実施期間内に活動内容をすべて終えることができた。

【成果】

SDGsの視点において、生徒が課題意識をもって活動に取り組むことができ、「海の環境」について考えるきっかけとなった。各教科の関連する項目やSDGsの14番に繋げることで効果的な活動ができた。また、海を渡った、歴史的偉人「ジョン万次郎」の生き方や人間性に触れ、自分の将来の目標を考える機会となった。「防災」についても専門家の講話や体験活動を通して災害時に役立つ知識を身に付けることができた。

【持続性】

海洋教育が職員に徐々に浸透されてきており、系統性を持って活動ができるようになってきている。探究学習に取り組み、校内で成果物の報告及び展示を実施。また、学習内容及び成果物を、糸満市役所のエントランスにて展示・活用することが恒例化している。次年度も今年度取り組んだ活動をもとに、さらに発展させた内容の学習活動を行う計画を検討している。

【信頼性】

担当職員は前年度から実施しているため、他の教員よりは比較的知識を有している。職員間で安全対策に力を入れ、活動当日は関係機関にも協力を仰ぎ、活動の協力体制を整えることができた。講話やビーチクリーン活動に新聞記事として取り上げられ、外部へ発信することができた。

【その他コメント・感想】

○今年度は教育計画にも「海洋教育」を位置づけ、毎年実施できるよう持続可能な計画を立てることができた。

○1年生はSDGsの視点から活動を進めることができ、海洋教育の導入部分として効果的であったと考える。2年生は「地域と海洋教育」のテーマを元に、観光・産業・歴史・文化など様々な視点から探究学習を行うことができた。3年生は海を活用しながら災害時に役立つ技能・知識を身に付け、地域防災力向上の意識を持つことの大切さを学ぶことが

○今年度は副読本も完成し、次年度の海洋教育が効率かつ効果的に進められると考える。

3. 学校関係者評価

学校運営協議会を開催した後、報告をします。